

---

# 阿佐ヶ谷のエキドナ

一染

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

阿佐ヶ谷のエキドナ

### 【Nコード】

N3785W

### 【作者名】

一染

### 【あらすじ】

阿佐ヶ谷のアパートにエキドナがいた。

「ええ、わかるの。昨晚中野で通り魔を犯したのは、私の兄よ」  
阿佐ヶ谷のアパートの一室で、エキドナは電話をかけていた。取り乱すエキドナの耳に、この上なく優しい声が受話器から響く。

「落ち着いて、エキドナ。あれはきみの兄さんなんかじゃない」

エキドナは不安に苛まれていた。その不安は最近生まれたものではなく、エキドナの本当に小さな頃からずっとあつて隠されていたものが、大人になって開花しはじめたような不安だった。

エキドナは電車に乗るために降りた地下の階段で窒息しそうになる。不安のもやが青っぽい空気となり、彼女の呼吸を妖しく脅かすのだ。電話をかけよう、エキドナは鞆から携帯電話を取り出した。彼女を裏切ることの決してない「電話の夫」の声を聞く時だけがこの空白の世界に唯一色をつける時間だった。携帯には「圏外」の文字。エキドナは半ば焦りながら地上へ上がるかと振り返った。

その瞬間、汚らしいらくだ色の毛布をかぶったホームレスの男と目が合った。エキドナはその目にひどくひるんだ。確かに、彼女はその目を知っていた。もうはるか昔、小さい頃に見ていた目。エキドナは男の視線を振り払うように急いで階段を駆け上がり、アパートに帰ると毛布をかぶって震えて眠った。

その晩、エキドナは夢を見た。

阿佐ヶ谷の都営住宅にニユクスがいた。

夫は長いこと行方不明だった。

たくさん子供がいた。18人いた。

ある大雨の日に、ニユクスは溺れて死んでしまった。

餌を絶たれた子供たちは共食いを始めた。

食われて死んだ残骸を、子供たちは哀れんで眺めた。

子供たちはベランダに出て葬式を始めた。

雨はますます強く、雷がすぐそばで鳴った。

人が子供の葬式を見て、びっくりして逃げた。

警官が子供の葬式を見て、びっくりして撃った。

隣の婆さんがお悔やみに来た。

婆さんは子供たちを見て眉を顰めた。

「まあ残酷なこと。ろくなものになりはしないだろうねえ」

その時殺された子供は、私の弟

目を覚ましたエキドナは、自分の抱えていた不安の意味がわかって恐れおののいた。

エキドナは思い出したのだ。

自分がこの世にいることの意味、兄弟たちがいることの意味。

絶望したエキドナは都営住宅のベランダから身を投げようとした。それを見咎めた母に、エキドナは聞いた。なぜ、私を生んだの？母は答えた。私は愛しただけよ、と。

「ねえ。私が生まれた意味って何かしら。私、いいことなんか何一つ出来ない。

みんな私と関わると不幸になるわ」

「いつだって必死なのに」エキドナは涙ぐんだ。

「聞いて、エキドナ」

電話の向こうの声はいつもと変わらず優しく囁いてくれる。

「きみは僕に似ている。こうやって話しているとすごくそう思うよ。きみを救いたいと思う。現実にはそれは出来ないけれど、きみが幸せな姿を見ることが出来れば、僕はきつと幸せだ」

エキドナは次々あふれ出る涙をこぶしでぬぐった。

「きてよ。私のところに来て。私にもう一度その話をして」  
わずかな沈黙が流れ、電話の声は悲しそうに言った。

「僕は電話の中にいる。ここからは出られないよ」

裏切ることの無い電話は、何も変えてはくれない。そのことを知ったエキドナは泣いた。泣いて、涙が枯れるまで泣いて、もうそれ以上は覚えておらず、そのあとは電話は通じなくなった。

その晩、エキドナは初めて見ず知らずの男に身を預けた。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n3785w/>

---

阿佐ヶ谷のエキドナ

2011年10月9日16時01分発行